

11月13、14日 第60次 兵庫県教育研究集会 ひょうご教育フェスティバル

2日間で、延べ5,400人が参加

主催者のあいさつをする山名委員長。(11月13日 県立武道館にて)



11月13日(土)、14日(日)の2日間、姫路市で第60次兵庫県教育研究集会「ひょうご教育フェスティバル」が開催された。県内から参加の教職員、退職教職員子ども、保護者・働く仲間・地域の方々など、延べ5,400人が参加した。県立武道館、姫路市立山陽中学校、手柄小学校を会場に、にぎやかなステージ発表と熱のこもった分科会、多くの保護者や関係者の方々が参加されたシンポジウムやフォーラムで成功をおさめた。



森本洋平連合兵庫会長

森本洋平連合兵庫会長
教育問題は単に学校の問



井戸敏三兵庫県知事

井戸敏三兵庫県知事
60回の回数を重ねるうち



石見利勝姫路市長

石見利勝姫路市長
19年間、大学で教鞭を



大西孝兵庫県教育長

大西孝兵庫県教育長
少人数学級や新学習指導



尾上浩一兵庫県PTA協議会会長

尾上浩一兵庫県PTA協議会会長
先生方は教育のプロであ



発行所 神戸市中央区中山
手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 山名幸一郎
編集人 泉雄一郎
電話 050(3538)2346
1部7円 年定価280円
(組合員の購読料は
組合費の中に含む)

2010/12・1

No. 1780

2面
分科会・展示・体験コーナー
概要と参加者の声
アンケート、速報・しらせより



この印刷製品は環境に配慮した材料と工場で製造されています。



山名幸一執行委員長

山名委員長あいさつ要旨
「開かれた教研」として、年々、保護者や地域、子どもたちの参加が増え続けていることが喜ばしい。メイ

「子どもの豊かな育ちを實現していくために...」
「子どもの権利条約」を真剣に受け止める
いていこうという私たちの願いが込められている。子どもたち一人ひとりの豊かな育ちを實現していくためには、学校、家庭、地域社会において、心地良い居場所づくりが必要だ。子どもの学びの場であり、育ちの場である家庭や地域社会と学校が、それぞれの役割を持ちつつ連携を深めていくことが大切。

兵庫県では、知識の教育だけではなく体験を通して子どもたちが学び、考え、体得する教育が重視されてきた。自然学校、トライやるウィーク、環境体験事業、

わくわくオーケストラ教室、スポーツクラブ21ひょうごなど、保護者、地域、学校が手を携えたとりくみとして全国的にも高い評価を得ている。これらの事業に積極的に

取り組む深刻な課題が山積している。子ども虐待、いじめ、自殺、不登校、高校中退、未就業の若者たち、これらは何としても力あわせし、克服していかなければならない課題である。日本が子どもの権利条約に批准して16年目。この理念や提言を、真剣に受け止める必要があるのではない

か。この教研では、教職員から344本、地域や保護者から23本のレポートをいただいた。これらをもとに、それぞれの分科会で活発な研究討論がおこなわれることを期待する。



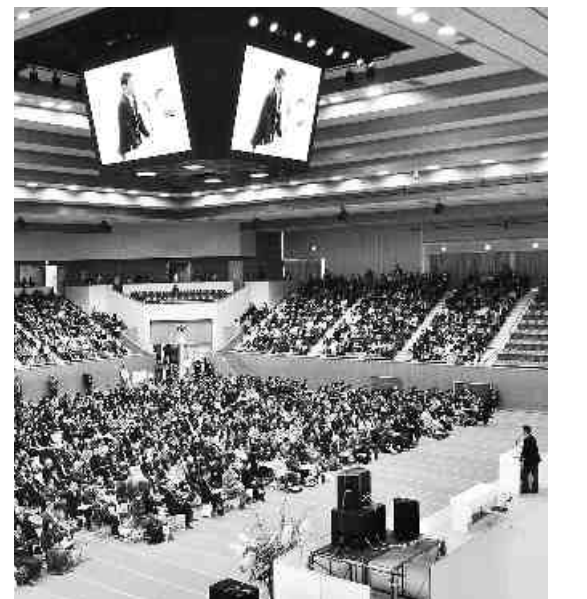
「大きな木のある学校」 赤穂市塩屋小学校六年(作品は五年時) 大谷 葵

ギョーラー。この意識で子どもたちの教育にあたっていた。私たちがPTAとして、学校や先生を手助けできないかと活動している。しっかりと手を携え、同じ方向を向き子どもたちのために頑張っていきたい。先生方の熱い思いを子どもたちにつづけていただき、しっかりとした兵庫県の教育方針を担っていただきたい。



プロ野球解説者 金村義明さん

「我野球人生」果報は動いてつかめ」
金村義明さん
金村さんは、これまでの野球人生を振り返り、健康な身体に産んでくれた両親や支えとなってくれた方々への感謝の気持ちを述べた。また、プロ野球に入り、引退から現在に至るまでの挫折や心境の変化など、辛い経験をも面白くおもしろく話を交えて話した。



「大きな木のある学校」 赤穂市塩屋小学校六年(作品は五年時) 大谷 葵

分科会

1 日本語教育



★小中それぞれのとりくみを聞き、つながる学習を考える機会となった。少しずつ授業に取り入れていければと思う。

4 算数・数学教育

教材・教具の開発と指導法の工夫をテーマに、実践が交流された。

★子ども同士が説明し合うことで互いの力がつくこととの大切さを痛感した。

★分ける授業のためには、まずは教員が教材研究をしなければと感じた。

★地域に根ざした和算書の活用や正負の数計算におけるトランプの活用など、生徒の関心をひく実践が興味深かった。

★言葉の力、コミュニケーション能力をもつと子どもたちにつけさせたい。

★実践例が参考になったが、まだまだ不安が残る。小学校の外国語に対する本音の意見が多く出た。

★「兵庫の新しい授業を創りあげよう」という前向きな意見で終えることができた。

★3 社会科教育

地域教材・地域学習の大切さ、どのような力を育てていくかなどが討議された。

★子どもたちの身近なものから授業することがとても大事だと再確認した。

★5 理科教育

細胞分裂を観察する酢酸ダーリア染色法、ブタンの燃焼実験、西宮白水峽の地層などを中心に、理科教育の充実について話し合われた。

★子どもたちの身近なものから授業することがとても大事だと再確認した。

★6 美術教育

作品を前に、基本的な表現力を保障する授業の組み立て、地域に根ざした題材の発掘と教材化をどうするかなどが討議された。

★7 音楽教育

音楽を通して学校づくり、地域とのふれあいを通じた音楽活動などが討議された。

★8 技術・家庭科教育

生活に活かす技術・家庭科教育、全員参加の成功体験を得る授業をめざすことなどの実践報告があった。

★9 保健・体育

定により、生活指導面においての意見交換と相互理解の交流がおこなわれた。

★10 総合学習

24本のレポートを、「子どもが変わる」「学校が変わる」「地域が変わる」の3つの柱に分けて討議された。

★11 自治的諸活動と生活指導

小・中の合同分科会の設定になった。

ひょうご教育フェスティバル
第60次兵庫県教育研究集会

分科会
展示・体験コーナー

アンケート、速報「しらさぎ」より
概要と参加者の声 (一部抜粋)

※★印は参加者の感想。



保健と体育の合同分科会の設定により、「心と体が一体化となる保健体育」のテーマが意識づけられた。

10 総合学習

24本のレポートを、「子どもが変わる」「学校が変わる」「地域が変わる」の3つの柱に分けて討議された。

★豊かな体験活動を通して、自分の住む地域に自信と誇りが持てるのだとわかった。

★幼小連携で幼児期に必要なことは、五感を使った遊びや人との信頼関係を体験していくことだと改めて感じた。

★幼稚園・小学校の教員が、同じ教育観を共有できる喜びがあった。

★13 人権教育

部落差別の問題を現在の問題として、また、自分の問題として子どもたちにどう捉えさせるのかを中心に討議された。

★子どもへの言葉かけを考えていきたい。

★部落差別問題に地域学習は外せない。

★人権意識を高く持ち、集団でとりくむことをコツコツと頑張っていこうと思った。

★14 障害児教育

障害のある子・人の人権にこだわることを念頭に、就学、共生・共学、進路保障などが討議された。

★共生社会をめざしていたはずが、特別支援教育体制の定着で逆の方向にすすみつつある実態が見えてきた。

★「共生」という言葉を見直していきたいと思う。

★15 国際連帯の教育

学力保障、母語保障、本名の大切さなどについて、活発な話し合いがおこなわれた。

★これまでの外国籍の個人に対する国際教育とは異なった視点での、一般生徒に対するとりくみがとても勉強になった。

★16 男女共生教育

意識・習慣の改革、性の教育、労働・家庭などを柱に討議がおこなわれた。

★地域の偉人を扱った、今までにないレポートに感銘を受けた。

★17 環境・公害・食教育

学校給食、家庭・地域社会と連携した「食育」。身近な環境をみつめ、循環型社会の創造にむけたとりくみなどを中心に討議がおこなわれた。

★「食育」はこの先の子どもの健康な笑顔につながるかと信じている。

★地域の協力を得ながら学習をすすめられていることが素晴らしい。

★18 平和教育

地域、ヒロシマ、ナガサキ・オキナワに学ぶ平和教育が討議の柱。子どもを中心に据えた学習活動や平和についての考えが、子どもの日常へとつながっていくとくみがあった。

★若い教員とベテランの教員が連携してすすめる様子に感銘を受けた。



★今一度、原点にかえって考える必要がある。

19 情報社会と教育

「情報社会」に生きる子どもにとつての、学校教育、地域や家庭のあり方やコンピュータをはじめとする情報機器を効果的に活用し、メディアリテラシーを高める創造的な学習活動などが討議された。

★昨年までレポートはほぼ男性だったが、女性のレポートがいた。確実にICT(情報コミュニケーション技術)が定着しているのだと思った。

★20 評価・選抜制度と進路保障

すべての希望する生徒に高校教育を保障し、受験競争の緩和、学校間格差の解消にむけ、地域の高校づくりをどうすすめるかなどが討議された。

★個が最大限にいかせるように、進路を切り開けるように学力の定着を図っていきたい。

★22 小規模・少人数校の教育

少人数の子どもたちから学習意欲・自主的な活動をどう引き出すかなどが討議の柱。

★学校の統廃合が異様な速さですすんでいることに驚いた。

★23 教育条件整備の運動

ゆたかな教育の創造と特色ある学校づくりの推進(教育予算、人的配置、学校施設・設備の拡充)をどのようにすすめるかについてが討議された。

★学校職員の意思統一の大切さと難しさがわかった。

★教育条件整備をしていくことで、子どもが学びやすく教職員も働きやすい学校になると気付かされた。運動は一人ではできない。改めて組合の大切さを認識した。

★特別分科会Ⅰ

生きる力を育む教育

子どもが自己を見だし、連帯感を育むことがで

きる活動や指導について、防災教育やトライやる、不登校など多岐に渡る内容で討議がおこなわれた。

★特別分科会Ⅱフォーラム

児童養護施設と学校・地域の連携

児童養護施設と学校・地域の連携した実践について交流をはかるとともに、開かれた教研の中で広く発信することを通して、とりくみのネットワーク化にむけて一歩を踏み出した。

(要旨は後日掲載予定)

★展示・体験コーナー

毎年人気の安全・安心でおいしい学校給食展の今年「ひめじおでん」。連日大盛況であつたという間に完食となつていた。また、親子でつくる郷土料理教室には、事前予約の46名が参加。子どもたちは真剣なまなざしで料理をつくっていた。

他にも、さまざまな展示・体験コーナーで、教職員だけでなく、子どもや保護者、地域の方々の笑顔をみることができた。参加者からは高い評価をえていた。

★保護者の感想

★分科会での地道な活動を知り、心強く感じた。もっと広がれば良いと思う。

★素晴らしいとりくみ力をもらった。地域へ持ち帰りたい。「食育」は、私たちの食料自給力に即繋がると感じた。

★手がかかっているながらも手作り感と温かみのある展示に驚き、子どものように楽しめ勉強になった。

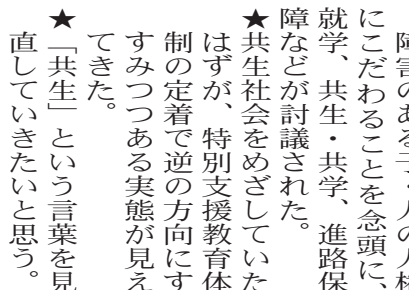
★今後も、こういったかたちで参加できる会を続けていってほしい。



★12 幼年期の教育と保育問題



「子どもの育ちをどう保障するか」を前提に、異校種間の相互理解を深めることとよりよい交流や連携を継続するための方策が討議

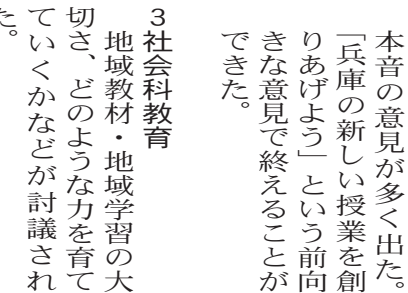


★21 教育課程

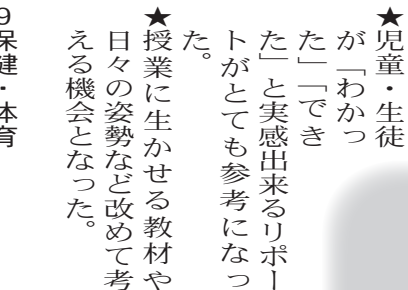


★22 学校・地域における教育改革運動

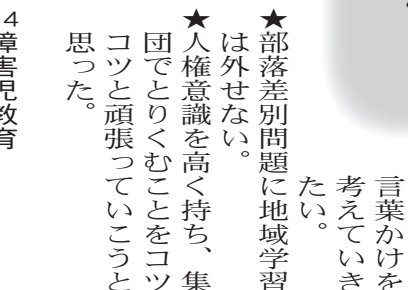
きる活動や指導について、防災教育やトライやる、不登校など多岐に渡る内容で討議がおこなわれた。



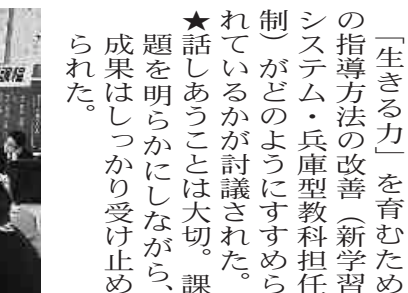
★23 教育条件整備の運動



★24 学校・地域における教育改革運動

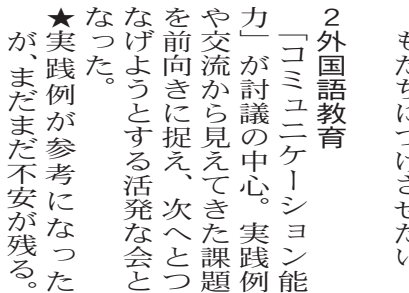


★25 学校・地域における教育改革運動

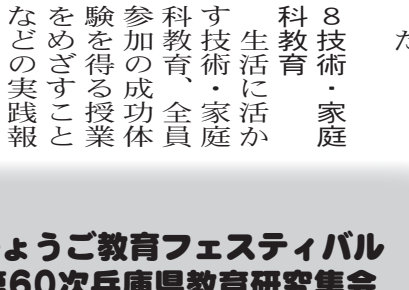


★26 学校・地域における教育改革運動

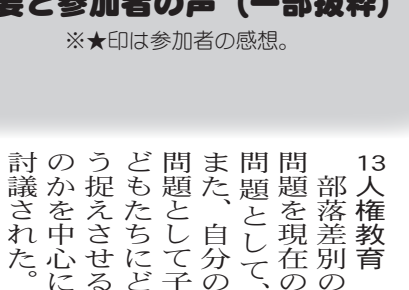
★27 学校・地域における教育改革運動



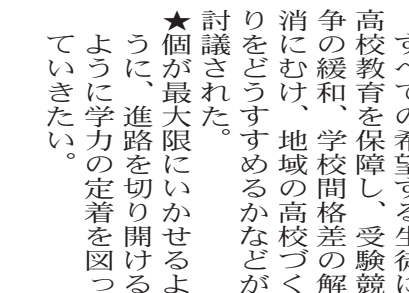
★28 学校・地域における教育改革運動



★29 学校・地域における教育改革運動



★30 学校・地域における教育改革運動

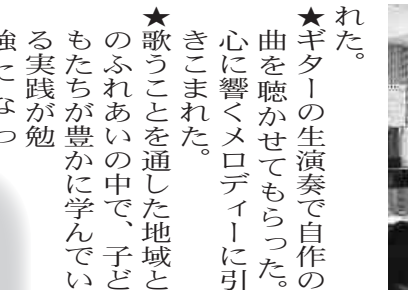


★31 学校・地域における教育改革運動

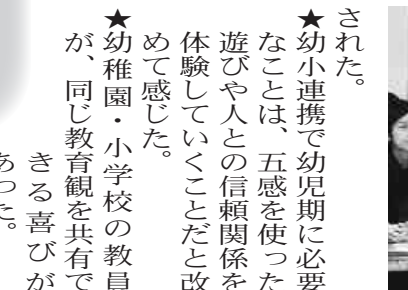
★32 学校・地域における教育改革運動



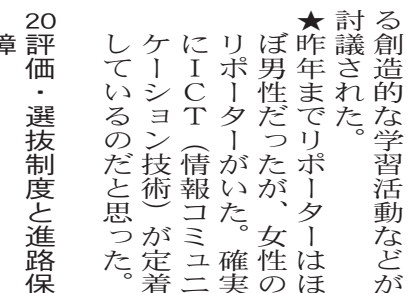
★33 学校・地域における教育改革運動



★34 学校・地域における教育改革運動



★35 学校・地域における教育改革運動



★36 学校・地域における教育改革運動

★37 学校・地域における教育改革運動



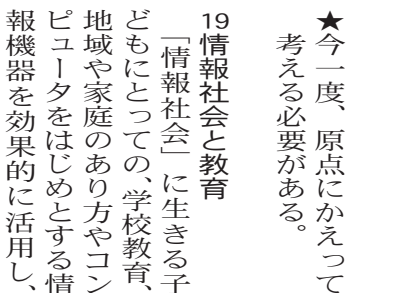
★38 学校・地域における教育改革運動



★39 学校・地域における教育改革運動



★40 学校・地域における教育改革運動



★41 学校・地域における教育改革運動

★42 学校・地域における教育改革運動



おもしろ科学コーナー

さようネイチャーランド

エコ手作りおもちゃ教室

親子でつくる郷土料理教室

郷土料理試食コーナー